



## 「茶道の学習」から

校長 金森 卓哉

今月は、2度、茶道の先生に来ていただき、茶道の学習をいたしました。対象学年は1回目が3・4年生、2回目が5・6年生で、茶道の歴史から、実際に茶道での座り方・立ち方、お茶のたて方、お菓子のいただき方、そして、茶道に使う道具名など一通り学習しました。

その中で、私の耳に残ったことがあります。それが、「3種類のお辞儀」という言葉でした。流派によっても違うのかもしれませんが、今来ていただいた先生から教えていただきました。

茶道の3種類のお辞儀には、「真」のお辞儀、「行」のお辞儀、「草」のお辞儀の3種類があるそうです。

「真」のお辞儀は、最も深々とするお辞儀で両方の手のひらをべったりと畳に付けて丁寧にしてお辞儀をします。お茶をいただくときなどに行います。「行」のお辞儀は指の腹、第2関節くらいまでを畳につけて、「真」のお辞儀より軽く会釈するそうです。3番目が「草」のお辞儀です。指先を膝の前の畳に付けて、状態を軽く前にさげます。この3つのお辞儀を教えていただいた時、その奥の深さを知らされたような気がしました。

その時ふと考えたことが、私たちの「挨拶」です。丁寧に挨拶を交わす時、お辞儀もするものです。学校では、朝、子どもたちが元気に、「おはようございます。」と先生方に挨拶をしたり、友達どうして「おはよう。」と挨拶を交わしたりしています。帰りも先生方に「先生、さようなら。」や「さようなら。」という元気な声が聞こえてきます。元気な声の挨拶は、小学校らしく聞いていて、とても気持ちのいいものです。

ただ、1つ気になることがあるのです。それは、来校者への挨拶なのです。

先生方や友達どうして気持ちよく挨拶できている子どもたちなのですが、来校者（お客様）が来ますと、そのお客さんを見てわずかに視線が止まり、挨拶をしてくれるかなと見ていると、黙ってしまう子どももおります。大人の私から見ていると、「あれ、どうして、挨拶してくれなかったのかな？」とふと考えるのです。子どもたちの心の中には、きっと、「挨拶しようかな。」「こういう時は、挨拶するんだよね。」「あいさつするぞ!」という気持ちが、心の中でいっぱいになっているのかもしれませんが、ですが、挨拶までいかないようなのです。もしかすると、「お客さんの方から先に挨拶をしてくれたら、自分もできるんだけどなあ。」という子どももいるのかもしれませんが、心の中の「挨拶しよう」という気持ちに「スイッチ」を入れることができないのでしょうか。「挨拶をしようか。どうしよう。」と揺れる気持ちのままているのでしょうか。

こんな時、そういう子どもと一緒に挨拶について考えたり、スイッチを入れるヒントを与えたりするのは、私たち大人の仕事なのかもしれません。挨拶をすると、自分の気持ちが明るくなるものです。来校者（お客様）にとっては、初めての場所で初めて会う子どもたちから元気な「挨拶」をしてもらうと「緊張していた気持ちがほぐれ」、「明るい気持ち」へと変わり笑顔となり、思わず「挨拶」を交わしてしまうようなのです。挨拶の力は、すごいようなのです。

インターネットで「茶道のお辞儀」について調べていましたら、こんな文章がありました。

「お辞儀は、相手を敬う気持ちや感謝の気持ちを表す表現です。お辞儀をする時は、まず、相手を見ること。そして、心の中で、「よろしく お願いします。」「ありがとうございます。」とつぶやくことを、日ごろから心がけましょう。」と書かれていました。2回の茶道の学習が終わって2人の先生がお帰りになる時、笑顔で「次年度もまた 呼んでください。」というお言葉とともにお辞儀を受けました。

11月は講演会や別海町PTAの研究大会、本校PTA文化部が行ってくださった「秋のパンづくり」などたくさん催し物がございました。また、本校農園へは堆肥が入り次年度の農園準備ができました。保護者の皆様に多くのご参加やご協力をいただきましたことを感謝申し上げます。いよいよ「師走」になります。1年の終わりに向けて気ぜわしくなる時期です。朝晩の冷え込みも本格的になってまいりました。